

第44回 市政e-モニターアンケート 『共生社会』について

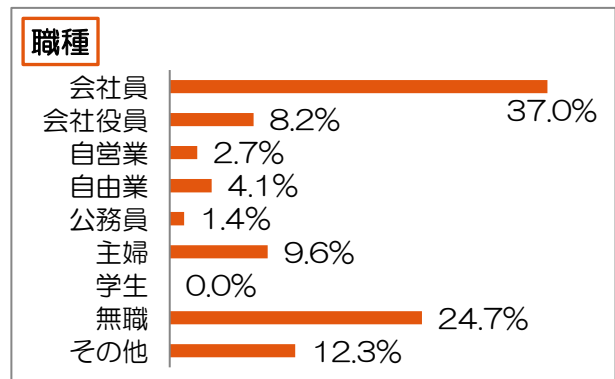
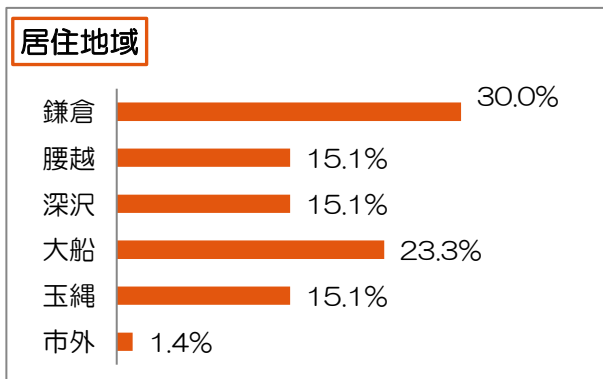
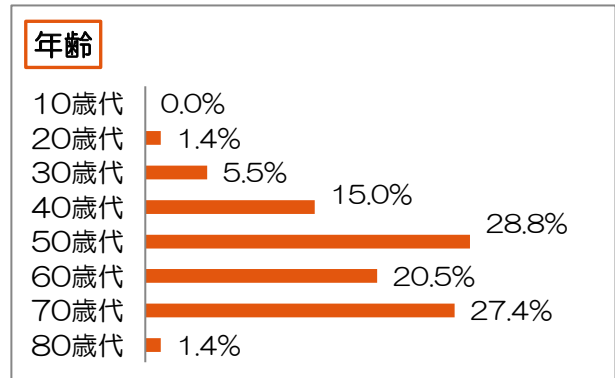
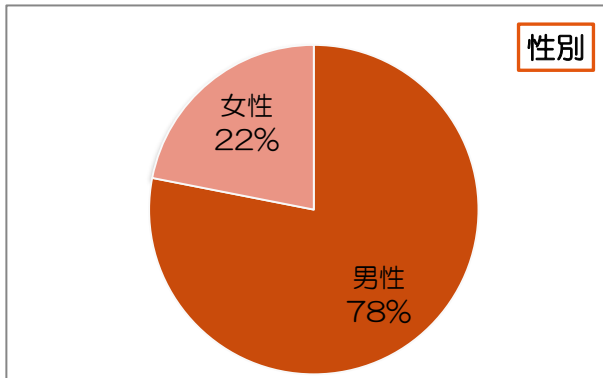
【テーマ】『共生社会』について

【目的】市では、年齢や状況に関わらず、すべての人がお互いに人格、個性、多様な生き方などを尊重し合い、共に支え合うことができる「共生社会」を目指して、さまざまな事業を実施していきたいと考えています。

そのために、みなさまのご経験や考えをお聞かせください。

- ◆ アンケート送信日 : 平成30年9月21日（金曜日）
- ◆ 実施期間 : 平成30年9月21日（金曜日）～10月5日（金曜日）
- ◆ 送信者数 : 450名（着信者数 438名）
- ◆ 回答者数 : 73名
- ◆ 回答率(对着信者数) : 16.7%（前回より -17.8ポイント）

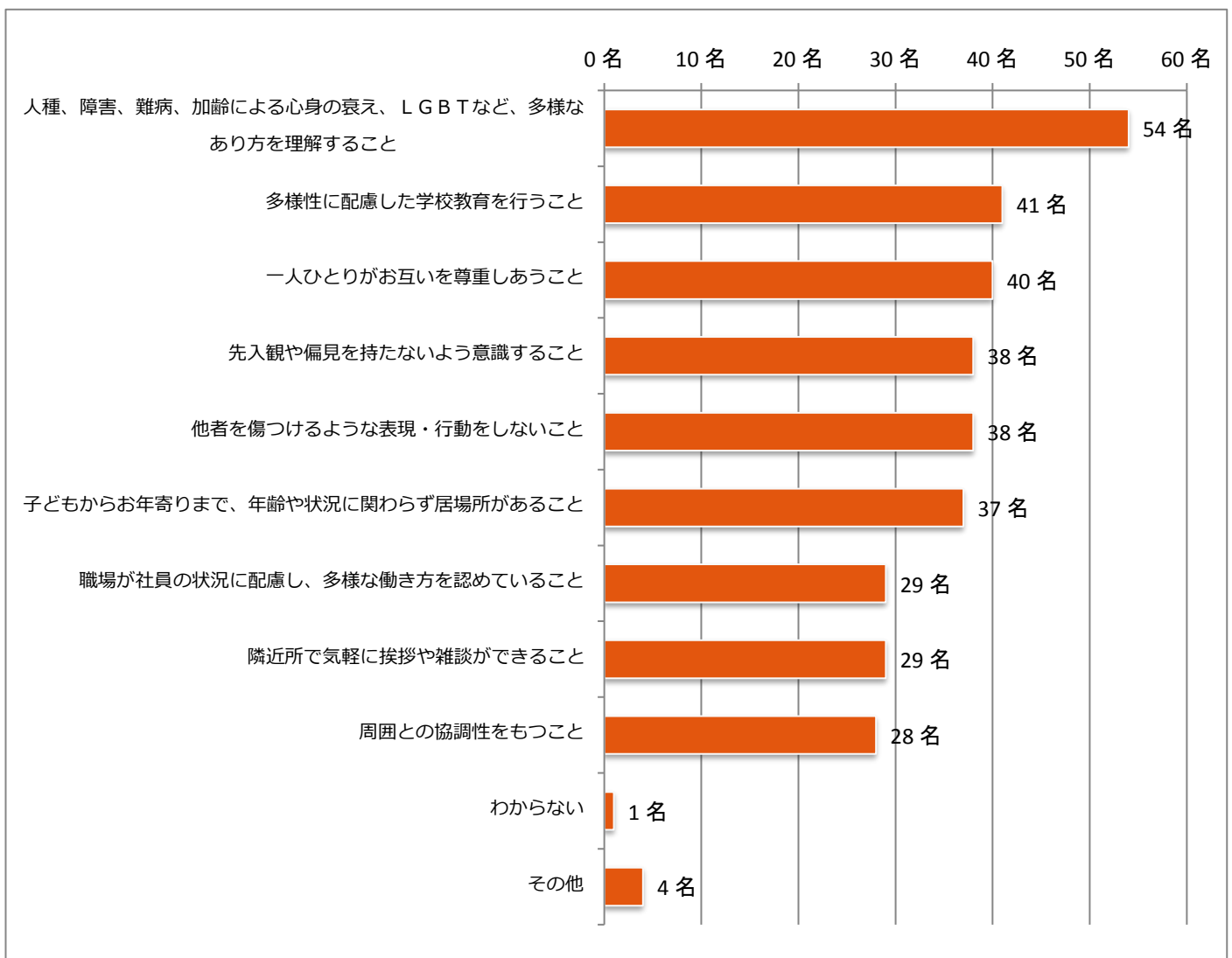
【今回の回答者の基本属性】



速報値の基本属性の数値に一部誤りがございました。お詫び申し上げます。

【質問1】(必須) 「共生社会」の実現のためには、「お互いの人格・個性・多様な生き方などを認める寛容な地域づくり」が一つの課題となります。多様性を尊重するために必要なことは、何だと思えますか。(複数回答可)

1. 人種、障害、難病、加齢による心身の衰え、LGBTなど、多様なあり方を理解すること	54名
2. 多様性に配慮した学校教育を行うこと	41名
3. 先入観や偏見を持たないよう意識すること	38名
4. 職場が社員の状況に配慮し、多様な働き方を認めていること	29名
5. 周囲との協調性をもつこと	28名
6. 隣近所で気軽に挨拶や雑談ができること	29名
7. 子どもからお年寄りまで、年齢や状況に関わらず居場所があること	37名
8. 一人ひとりがお互いを尊重しあうこと	40名
9. 他者を傷つけるような表現・行動をしないこと	38名
10. わからない	1名
11. その他	4名



※【その他】4名の方のご意見

- 互いに寛容であること、できる範囲で全体最適を意識すること。
- 自分自身の常識や普通は〇〇であるべきといった感覚は他者とは当然異なるものであると自覚すること。
- 異なる価値観こそが多様性を生み出す根源であり、多様性は社会を発展させるために必要不可欠な非常に価値あるものだと自覚すること。
- 属性の異なる方々との交流を定期的に持ち、自分とは異なる生き方、価値観、経験を知ること（例：小学生と高齢者、女子高生と会社員、海外渡航歴なしの方と外国籍の方 etc.）

- 自分が上のようなことを認めることができなくても、決して人前で口に出したりしないこと。
- 差別と区別を明確に定義すること。
- 法整備による賞罰も必要ではないでしょうか？人権を損なう行動や発言を法の下に罰する。その逆称賛に値する場合は何らかの表彰など。

【地域共生課より】

多様な価値観、多様なあり方を理解すること、お互いを尊重し合うことなどが必要だという考えが多いことが分かりました。また、多様性に配慮した学校教育が必要だと考える方も多く、学校教育の重要性がうかがえます。



【質問2】 (必須) あなた自身や、あなたの職場や近所や家庭などの身近なところに、社会的マイノリティ（※）だと思われる方はいますか。(回答は一つ)

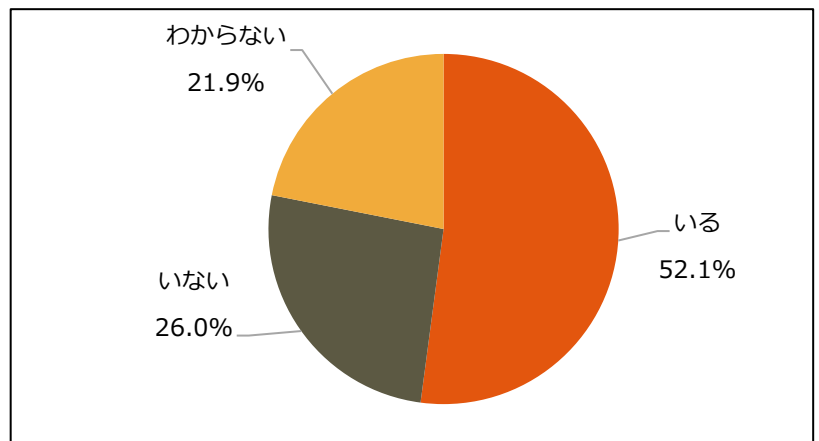
【用語解説】

※社会的マイノリティとは…

外国にルーツをもつ人や性的少数者、障害者、難病患者、婚外子、一人親家庭など、社会的な少数派や社会的に弱い立場にある方を言います。偏見や差別の対象になったり、少数者の事情を考慮していない社会制度の不備から損失を被ることもあります。

市では、社会的マイノリティの方たちが「困難」に直面しないよう、取り組みを進めていきたいと考えています。

1. いる	38 名
2. いない	19 名
3. わからない	16 名
合計	73 名

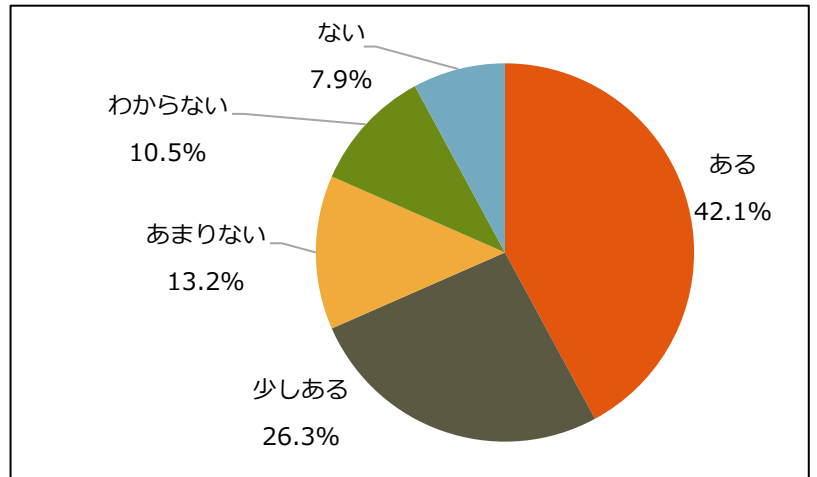


【地域共生課より】

半数以上の方が、身近なところに、社会的マイノリティだと思われる方がいることが分かりました。

【質問3】 その方が、社会的マイノリティであるがゆえに困っていることはありますか。(複数いる場合は、一番あなたに近い人を想定して教えてください。)(回答は一つ)

1. ある	16 名
2. 少しある	10 名
3. あまりない	5 名
4. ない	3 名
5. わからない	4 名
合計	38 名



【地域共生課より】

約7割の方が社会的マイノリティであるがゆえに困っていることがあるということが分かりました。市では、声が少ないことで社会から疎外されることのないよう、取り組みを進めたいと考えています。

【質問4】 (必須) 社会的マイノリティであるかどうかに関わらず、わたしたちは、しばしば、生活する上で「困難」に直面することがあります。このようなとき、その背景に、「社会的な障壁」(※) (社会生活を営む上で妨げとなる社会的な制度や慣行) が存在するという考え方を知っていましたか。(回答は一つ)

【用語解説】

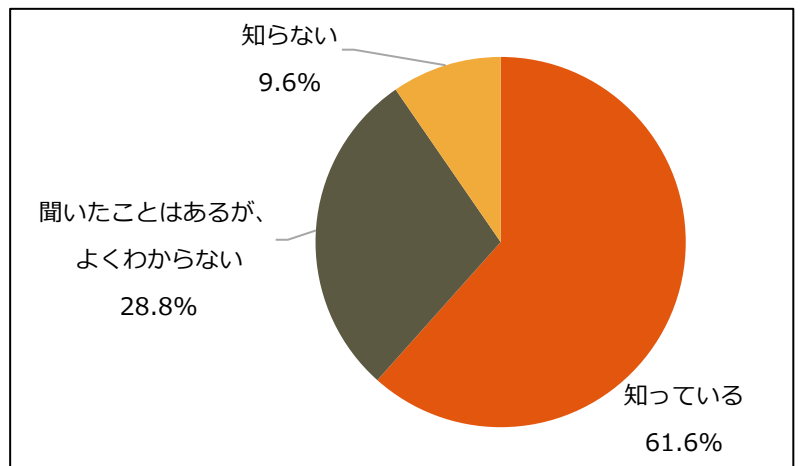
※社会的な障壁とは…

「困難」に直面する原因は、「その人の心身機能によるもの」でなく、「社会環境因子が整備されていないため」とする考え方です。

例えば、歩行ができず車椅子で生活している人が、階段を昇れず困っているのは、その人が「歩行できないから」ではなく、「車椅子で移動できる環境が整備されていないから」とする考え方をいいます。

市では、生まれつきの「困難」のみでなく、例えば「高齢になって足腰が弱くなったことにより、外出しづらくなった」など、すべての人が、「困難」に直面する可能性があるとして捉えています。

1. 知っている	45 名
2. 聞いたことはあるが、よくわからない	21 名
3. 知らない	7 名
合計	73 名

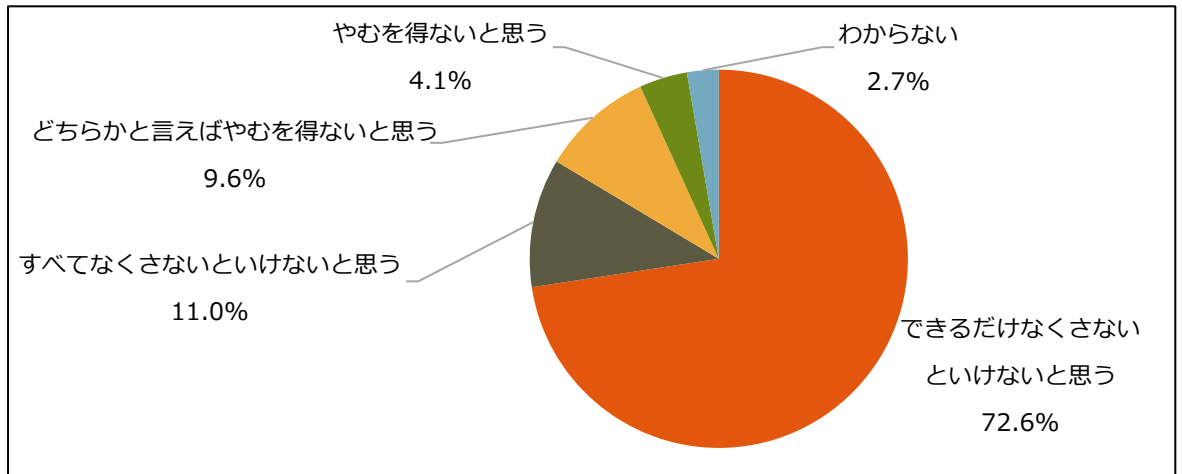


【地域共生課より】

約6割の方が「社会的な障壁」について知っていることが分かりました。一方で、知らない、よく分からないという方も多く、「社会的な障壁」の考え方を広く知ってもらえるよう、周知してまいります。

【質問5】(必須) 「社会的な障壁」が存在することについて、どう思いますか。(回答は一つ)

1. すべてなくさないといけないと思う	8名
2. できるだけなくさないといけないと思う	53名
3. どちらかと言えばやむを得ないと思う	7名
4. やむを得ないと思う	3名
5. わからない	2名
合計	73名

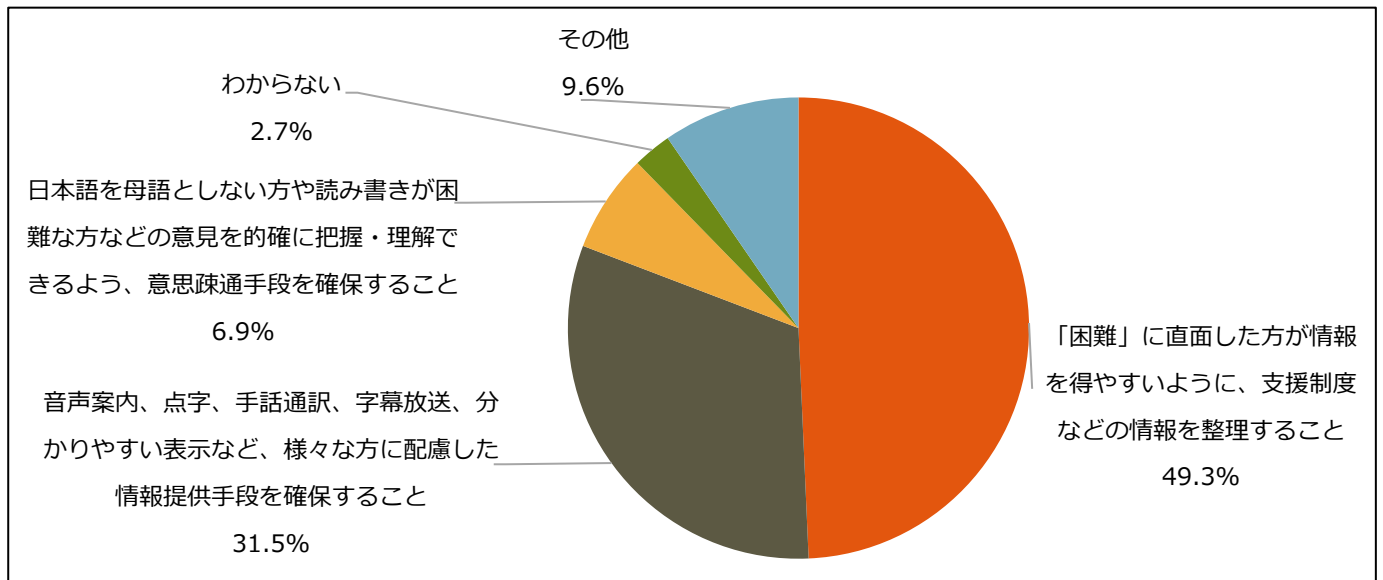


【地域共生課より】

8割以上の方が、「社会的な障壁」をなくしていかなければならないと考えていることが分かりました。そのため、様々な視点から、「障壁」をなくすための取り組みを進めたいと考えています。

【質問6-1】(必須) 市では、「社会的な障壁」の1つである「情報に関する障壁をなくす(情報を得るときの困難を解消する)」ための施策を実施していきたいと考えています。そのためには、どのような施策が一番必要だと思いますか。(回答は一つ)

1. 音声案内、点字、手話通訳、字幕放送、分かりやすい表示など、様々な方に配慮した情報提供手段を確保すること	23名
2. 「困難」に直面した方が情報を得やすいように、支援制度などの情報を整理すること	36名
3. 日本語を母語としない方や読み書きが困難な方などの意見を的確に把握・理解できるよう、意思疎通手段を確保すること	5名
4. わからない	2名
5. その他	7名
合計	73名



※【その他】7名の方のご意見

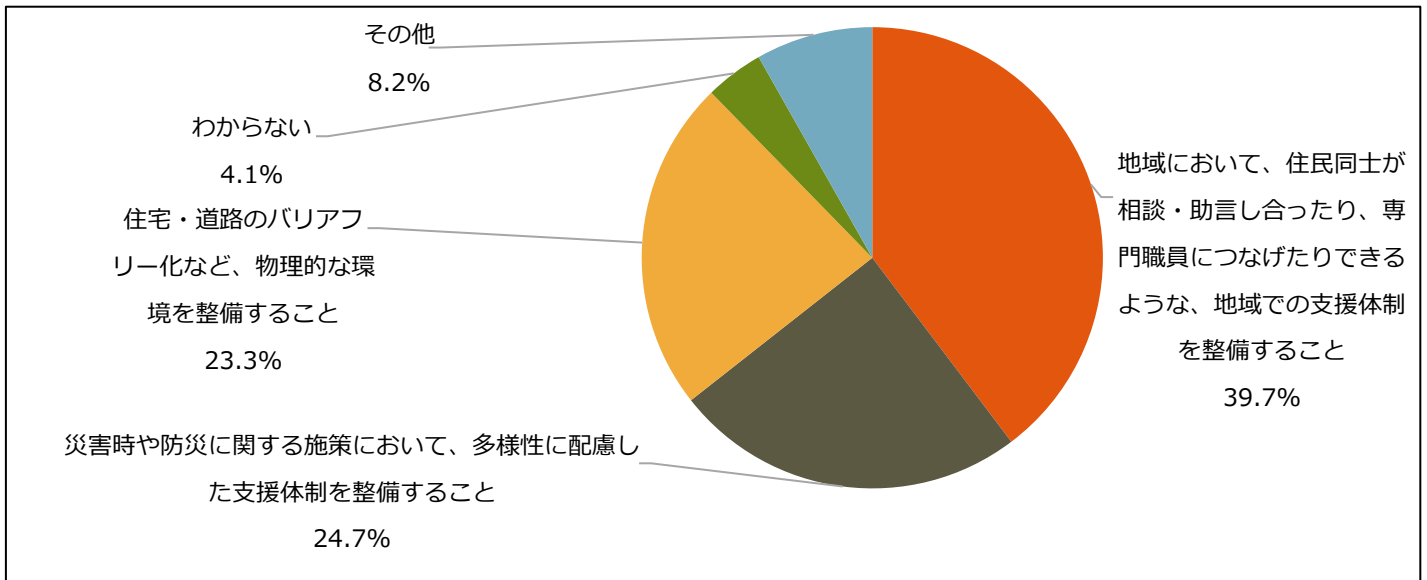
- 置かれた状況に必要な情報は何で、その情報はどこにあるかを知ることができる総合案内（電話、ネット、市役所内）を設置することが必要だと思います。
- 従来様々な手段を駆使することは無論のこと、AIなど最先端技術を取り入れる検討もすべきである。
- 「情報に関する障壁」について整理し、優先順位をつけて具体的な施策を実行する。
- 鎌倉市において、1から3はある程度の水準で実施されているように感じる。それよりも、高齢者及びスマートフォン・パソコンなどデジタルデバイスを持たない方とそれ以外の方との情報格差をなくすための施策を実施すべきではないか。例えば、高齢者へデジタルデバイスの機種選定から契約、基本的な機能と操作の説明に至るまでを行政でサポートするなど。そもそもデジタルデバイスの必要性を伝えることから始める必要があるかもしれないので、効果が出るまで時間がかかる施策かもしれないが、長い目で見た場合デジタルデバイスを扱える人間が市に増えることは確実に良いシナジーを各方面に生み出すはずである。（かつて識字率の向上がそうであったように）
- 弱者の中でも情報にアクセスできる人とできない人がいる。福祉の情報など自分に必要な情報の取捨選択ができない人（認知症など認知機能低下のある人を含む）をどう支援するかが重要だと思う。
- やりすぎる施策は結果、健常者にとってはかえって分かりにくくなる。案内等の外国語表示も英語だけで十分である。
- 1～3の対象が異なり過ぎていて、質問の目的がわからない。様々な社会障壁があるなかで、優先順位をつけさせるのが目的なんではないでしょうか？

【地域共生課より】

情報に関する「障壁」をなくすために、「困難」に直面した方が情報を得やすいように、支援制度などの情報を整理することが必要であると考えている方が多いことが分かりました。どのような情報が必要かも含めて、情報の整理について検討してまいります。

【質問 6-2】（必須）市では、「社会的な障壁」の1つである「生活環境の障壁をなくす（生活を送る上での困難を解消する）」ための施策を実施していきたいと考えています。そのためには、どのような施策が一番必要だと思いますか。（回答は一つ）

1. 住宅・道路のバリアフリー化など、物理的な環境を整備すること	17名
2. 地域において、住民同士が相談・助言し合ったり、専門職員につなげたりできるような、地域での支援体制を整備すること	29名
3. 災害時や防災に関する施策において、多様性に配慮した支援体制を整備すること	18名
4. わからない	3名
5. その他	6名
合計	73名



※【その他】6名の方のご意見

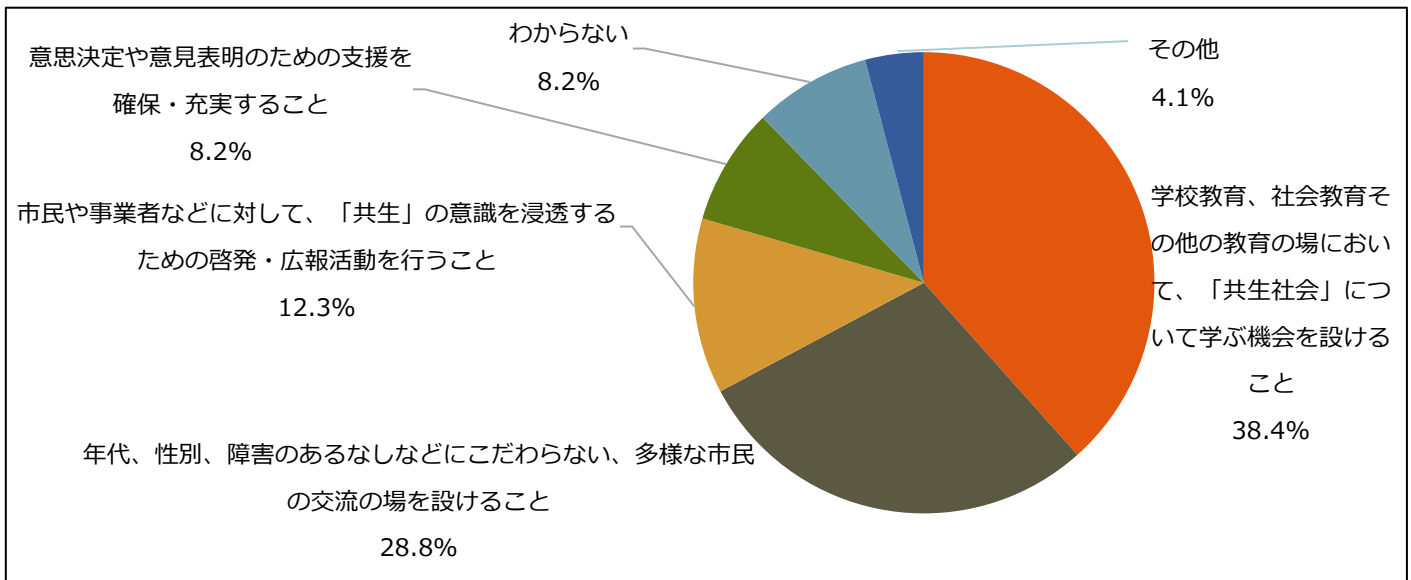
- 「高齢者にとっての移動手段の改善」足が悪い人にとって坂道を歩いて買い物に行くことは不可能。「買い物僻地」が既存の市内の住宅地で増えつつある。
- 1も2も同じくらい必要だと思います。
- 「生活環境の障壁」について整理し、優先順位をつけて具体的な施策を実行する。
- どれも必要ですが個人的に重要な項目の順番として1→3→2です
- 身近な場所に行政の窓口があること、臨機応変に対応できるサポート体制が必要だと思う。たとえば、ここに行けば基本的な相談に乗ってくれるような、身近な支所などが各地区に点在していることなどが必要。
- 終末期医療に関する相談窓口、支援を強化いただきたい。がん以外で利用できるホスピスが事実上ない。がん患者であっても、それ以上の加療が難しい場合に行き場がない。

【地域共生課より】

生活環境の「障壁」をなくすために、地域での支援体制の整備が必要であると考えている方が多いことが分かりました。市民や事業者などと連携しながら、地域で生活するための仕組みを整備できるよう検討してまいります。

【質問 6-3】(必須)市では、「社会的な障壁」の1つである「意識上の障壁をなくす(偏見・差別や憐み・同情の意識を解消する)」施策を実施していきたいと考えています。そのためには、どのような施策が一番必要だと思いますか。(回答は一つ)

1. 学校教育、社会教育その他の教育の場において、「共生社会」について学ぶ機会を設けること	28名
2. 市民や事業者などに対して、「共生」の意識を浸透するための啓発・広報活動を行うこと	9名
3. 年代、性別、障害のあるなしなどにこだわらない、多様な市民の交流の場を設けること	21名
4. 意思決定や意見表明のための支援を確保・充実すること	6名
5. わからない	6名
6. その他	3名
合計	73名



※【その他】3名の方のご意見

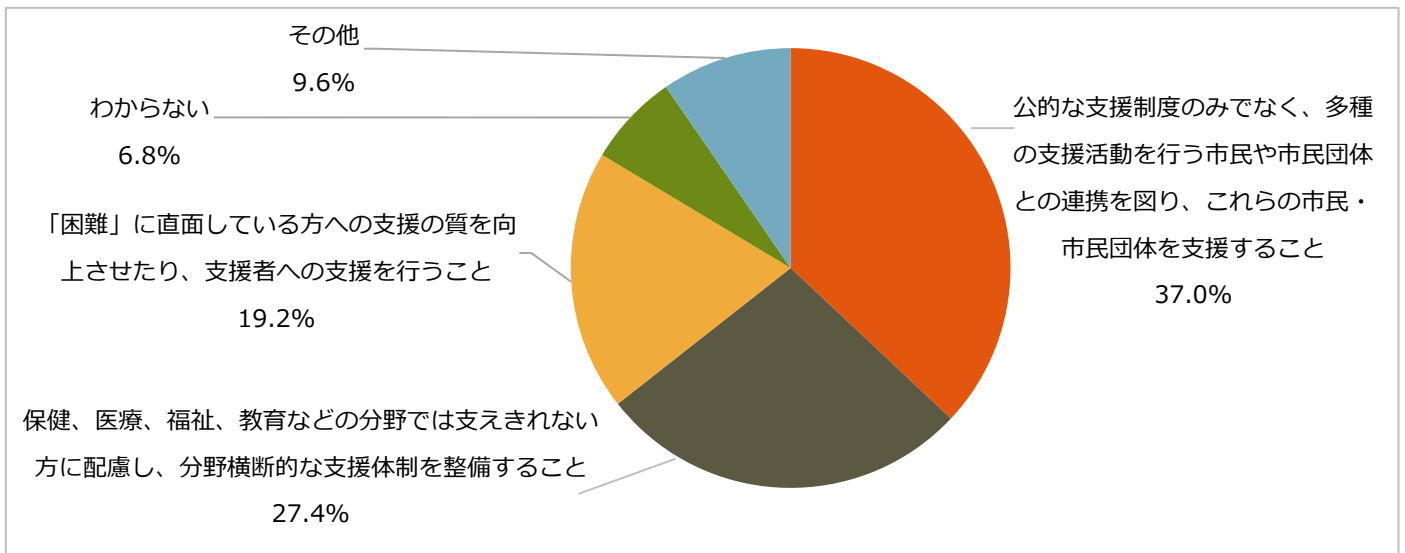
- 偏見かどうかの判断基準を明確にしてすべての人がそのことに納得しなければならないと思います。
- 1の幼少教育を実施した上で、3の場を設ける。1と3には相乗効果があるので、どちらか片方だけでは施策の効果が半減する。
- 思っても口に出さないようにすることを啓蒙する。

【地域共生課より】
 意識上の「障壁」をなくすために、学校教育やその他の様々な教育の場で、「共生社会」について学ぶ機会や、多様な市民の交流の場を設けることが必要と考えている方が多いことが分かりました。教育の場は、意識の形成に重要なものと捉え、必要な取り組みについて検討してまいります。



【質問 6-4】 (必須) 市では、「情報に関する障壁」「生活環境の障壁」「意識上の障壁」をなくすために必要な体制を整えていきたいと考えています。そのためには、どのような施策が一番必要だと思いますか。(回答は一つ)

1. 公的な支援制度のみでなく、多種の支援活動を行う市民や市民団体との連携を図り、これらの市民・市民団体を支援すること	27 名
2. 「困難」に直面している方への支援の質を向上させたり、支援者への支援を行うこと	14 名
3. 保健、医療、福祉、教育などの分野では支えきれない方に配慮し、分野横断的な支援体制を整備すること	20 名
4. わからない	5 名
5. その他	7 名
合計	73 名



※【その他】7名の方のご意見

- 市役所職員が役所を出て地域コミュニティと接する時間を増やすことで、課題の発掘、施策優先度の判定のできる能力を身に付けること。アンケートなどに頼ってはダメ。
- 1と似ていますが、まずは恒久性のある公的支援・支援の仕組みを整えていくことが一番だと思います。さらに、同時にさまざまな活動を支援することも大切だと思います。
- まずは各障壁を整理して、それぞれの施策を検討すべきと考えます。
- 高齢者、障害者のための障壁をなくすこと。児童、児童のいる家庭ばかり優遇で間違っている。
- 行政でできることは限られているので、家庭でできることに期待する。
- 困難に直面している方々は、支援を求めているのではなく、普通の人として自立した生活を自然に送りたいのだと思います。支援は最低限度として、自立できるためには何が必要かをもっと考えることが重要だと思います。オランダでは車椅子の人が介助無しで自立して生活している人も多く(移動や買い物、食事など)、周りの人々も彼らを特別視していなかったように思います。また、いろいろな困難があるのでここで必要な体制は決められないのでは？
- 市の対応にも多様性を設けること。困難に直面している方の状況は個別に大きく異なるはず。それに対して型通りのいわゆるお役所仕事の支援をしては根本的な解決にはいたらない。(根本的な解決とは困難者の心身・経済的な自立を指す)

【地域共生課より】

様々な「障壁」をなくすために必要な体制の整備について、市民や市民団体との連携・支援や、分野横断的な支援体制の整備が必要と考えている方が多いことが分かりました。すでにある活動や制度を視野に入れながら、調整・連携を図りたいと考えています。

【質問 7】 今後、「共生社会」の実現のために、市は、どのようなことに力を入れていったらよいと思いますか。ご意見やご要望をお聞かせください。

48名の方のご意見をいただきました。

【市役所へのご意見・ご要望】

- 市内の実状を市の職員が自ら確認に向かうこと。市民教育ではなく市職員教育が大切。
- 共生社会の実現するため、年齢にかかわらず意欲のある新規職員の採用。
- 市職員の教育。範を示すべき。
- 「SDGs」や「LINEとの連携」などと同じように、「共生社会を実現します。●●や●●をします！」と宣言することかと。
- 市としてやるべきこと、できること、そして、できないことを明確化して説明する。
- 支援すべきところは支援し、支援する体制を整え、その支援が有効に活用されているかをチェックする機能も同時に整える。必要な、可能な所にITなどの技術を活用し、アナログ的な人間対人間の対応が必要な所にさらなる人材をつぎ込める環境を整える。
- 1:みんなでルールを作り行動できる、制約の無い場所が必要である。2:人が集まってくる様なリーダーの養成が必要である。

- 『差別』と『区別』の明確化、『平等』と『公平』の明確化、『人権擁護による別の人権侵害の発生を防止するための施策実現』など。
- 行政でも市民でも横断的に情報の共有や活動を出来るようにすること。まずは知ることから。
- 市役所の各種窓口の他、教育・医療・介護・生活保護など一つのことをワンストップで対応できる体制づくり。いちいち市役所に行かなくても、各支所で同レベルのサービスを提供できるようにするべきだろう。
- 質問 6-4 に重なりますが、縦割り行政システムでも、横軸で繋ぐ連携システムを構築する必要があります。「こども」「高齢者」「障がい者」「外人」等の様々な問題を多領域の専門家の議論で解決すると共に、解決策の担い手としての「市民啓発」を同時に実行する必要があります。
- 多様な問題を素直に享受する市のあらゆる担当窓口の態度。
- 鎌倉市の体制整備はいつも全体像がわからない。何もかも全てできればよいが、市として何ができていないことで、今の議論の重要性をどの程度と考えているか、かけられる予算はどの程度か、財源は見通しがたつのかという情報提供がないままアンケートがくるので、全てできることは必要と思うが回答がしづらい。
- これから外国からの就労者が増えることを鑑みて、日本語を母国語としない人々、特に子供たちが、社会生活に溶け込めるように、早いうちに、モデルとなる他の自治体(例えば、太田市や浜松市)などと連携し、参考にさせてもらう、など。
- 障害が1つでないので提供されるサービスも多様化されると思います。弱者自身も活動を求められると思います。その為の仕組み作りと環境を整える事が必要だと思います。
- 対象者のタイプと困難の種類を分類整理して、優先度を決めて、それにしがった体制(外部支援も含め)構築と予算化を行う。これを半年で行いその後のスケジュールリングを行い実行する。
- 協力、共助を求める人の意見、要望を容易に吸い上げるシステムを構築する。たとえば希望者には、自宅等へ市職員が出向いて要望を聞いたり、まず希望があることを意思表示するための簡単な方法を公示する。
- 市報での広報活動や講演会、シニア教養講座等の開催など幅広い啓発活動の推進。
- ベースとして安全社会の構築。
- 多様性に配慮した市政づくり。
- 社会生活において、どういう部分が差別、障害があるか、本人に対してヒアリングを行い、そこから必要な対策をうつべき。
- 情報提供の機会を増やすこと。例えばインターネットでの情報収集に長けた人だけがより良い情報にたどり着けるような情報格差を極力なくしていくこと。一般の検索などでは表示順位に商業的理由が影響する為不十分。十分な知識、情報をもった相談窓口が充実してあるのが望ましい。
- 市として質問 6-1 の「1: 音声案内、点字、手話通訳、字幕放送、分かりやすい表示など、様々な方に配慮した情報提供手段を確保すること」の項目の実施に向けて取り組んでいただければと思います。
- 情報格差の是正。
- 周辺自治体との共生など、鎌倉市の内外において共生のための意識とツールを変革していくこと。
- 自ら率先して取り組んで頂き、それを市民のみならず様々な機会に情報発信して下さい。
- 各課がまず出来ることから始めて下さい。その小さな成果を積み上げることによって、やがて共生社会が実現していくとの姿勢が大事です。

【町内会等の地域コミュニティに関して】

- 地域自治会役員の市政よりの活動を改め地域住民本位の活動を目指す様指導すること。
- 市民が集まれる交流施設の整備。
- 地域に相談員を置く。市役所の支所みたいなもの。病人や障害者、高齢者でも行き来しやすい、地域密着型の施設。
- 属性の異なる人々との交流の場を恒常的に設ける。
- 基本的に、鎌倉市が行っていないことを、ニーズに応じて NPO 団体などが設立されており支援のノウハウもそうした団体のほうが充実していることが多いので、それらの支援を第一に考えて頂ければと思う。
- 福祉の関係では、情報が町会長、民生委員等に情報が入るようになって来てはいますが、それ以上に公開出来ないで困っています。
- 地域の活動を活性化させること。自分は横浜市で地域包括関連の仕事をすることがある。しかし鎌倉市役所に活動紹介に行っても担当者が専門職ではないのか、なかなか話が通らずとても消極的だと思う。「横浜市とは規模が違うので」と初めからやる気がない。規模が小さいところでも充実している地域はたくさんあるのもったいないと思う。

【市民への啓発等に関して】

- 困難を物理的に取り除くのではなく、市民一人ひとりの意識改革と互助精神の育成が必要。
- 市民全員が思いやりをもって生活できるよう、あらゆる機会に啓蒙活動を続けることが肝要だと思います。
- 市民の関心を高めることが必要だと思います。
- 共生社会の実現大段に構えず、日常生活で簡単にできることから着手する。
- 行政でできることは限られていると思う。行政が何かをやろうとすると、「差別をなくして・普通に生きたい」ということから、「優遇してくれ」という話になってしまう。もっと、行政以外の部分(家庭や地域の人々)で実現すべき問題。
- 実際に発生している困難事例を広く紹介し市民・人間として問題を意識させること。そこから何ができるか、何をすべきか、なにがしてほしいかと問題意識を対策へと発展させてゆく啓蒙活動・教育が必要だと思います。「啓蒙・教育」からですね。

【教育】

- 先ずは小さな頃からの教育だと、思います。家族に共生の努力が必要な人がいる、友達から学ぶ事が自然にできるのが、大切だと感じます。
- 制度ではなく教育。
- 幼児教育、学校教育の現場で教え実行するプログラムを導入する。自然と「みんな一緒」という環境作りを広めていくこと。
- 学校など、早い段階からの社会教育が必要と考えます。
- 多様性についての幼児教育の実施。

【その他】

- 「社会的マイノリティ」と「社会的弱者」を混同しないことが必要。
- 私は、障害者とLGBTが同列に語られることには、大きな違和感を持っている。
- 生存・生活に支障のある障害者・認識力に欠ける発達障害者・老人・ひとり親家庭などへの支援は積極的にすべき。
- LGBTは個人の嗜好の部分が強く、別に子供を作らないとくに異議はないが、社会的支援とかを声高に申し立てる根拠は他例を引いても出て来ない。社会的・生物学的な摂理に反することを自覚すべきで、婚姻等の法的な権原まで認める必要はない。認知だけはしてあげることの良い。
- 回答者は高齢であり、とくに望むことはありません。
- 共生社会の実現は必要なことですが、バリアフリーなど度を越えた対策は考え物だ。私自身79歳ですが、自身足腰を鍛えてバリアフリーのお世話にならないうように努力している。
- 共生社会より重要な課題が鎌倉市にはいっぱいある。そもそも、今回のアンケートに回答することで、鎌倉市がどうなるのか。わからない。
- 健常者も不便なことは多々ある。「困難」者だけが不便ではない。

【質問 8】(必須) 「共生社会」の実現のために、あなたが取り組めることがあれば、教えてください。

38名の方のご意見をいただきました。

【個人としての取り組み】

- 身近なところで多様な価値観を尊重する姿勢を持つこと。
- 常に精神的ゆとりを持つ。
- 一人ひとりがお互いを尊重すること。
- 相談され易い姿勢と傾聴する態度の構築かな。
- 市の取り組みへの協力。
- まずは自分自身の意識改革から始めなくてはなりません。もっと考えてみる必要があります。そのきっかけにしたいと思います。
- 偏見を持たず、フラットな見方を常に心掛けています。双方が甘えず平常心で発言、行動出来ればと思っています。決して権利・義務というレベルではなしに。
- 自分自身が、常に共生していこうと考えて生活することが重要。
- 困っている人がいたら手を貸す、ゆっくり話を聞くなど、相手の身を理解してすこしでも対応できるような能力を身に着ける。
- 防犯、美化への協力。
- 循環型社会形成の推進。
- 困難に直面している人が目の前に突然現れても自然な形で支援をオファーできること。
- 一市民として良識的な行動をとれるよう心掛ける。(例えば視覚障害者が困っていたら手を貸してあげる、重い荷物をもって階段や坂道で困っていたら持ってあげるとか…)
- 他の人の環境を知って理解し、共に過ごす。具体的にはわかりませんが。
- ボランティア講座の受講、技術の習得、実践。
- 共感できる取り組みへの積極的な参加。
- 積極的な地域自治会活動への参加。

【具体的な行動について】

- 困っている人を助ける。
- 高齢者の手助け。買い物など。通院補助など。
- 自ら運営に関わっている、発達障害・知的障害等をもつ方々向けのサッカークラブでの活動の継続。障害者・児にスポーツを通じて体を動かす楽しさを味わってもらうだけでなく、会員家族間の情報交換の場としても機能。会員数は設立以来ずっと右肩上がりが続いており、こうした活動の必要性を実感している。

- 既に「NPO 団体の交流イベント」と「市民主体の音楽イベント」の企画運営を実行しております。複数の他行政において、まちづくり系・都市景観系・環境系審議会の委員やアドバイザーを拝命しております。
- 専門職としての支援活動。町内会の活動。
- 町内会自治会組織を通じてのコミュニティ活動。
- デジタルデバイスを利用することによるメリットの講話。属性の異なる人々との交流の場を運営・管理するなど市からの補助金等が交付されるのであれば実施可能。
- 現役であるので、年収の1%を目途に、ユネスコ・民間団体に寄附をしている。時間ができれば、地域社会内での見守りなどには参加する所存。
- 自然の中で子供達が遊べる集まりを行っている。
- マンションの住人であるが、まず自分のマンション内で好ましいコミュニティが構築されるよう、種々の試み（談話会、同好会…）を立ち上げる。また周囲のマンションや地域住民とのコミュニケーションを良好に保つための試みを行う。市が仲立ちとなって地域住民のミーティングを時々開催してもよい。
- ご近所のコミュニティを展開するために隣人パーティーを開いた。町内会の活動にも積極的に参加している。近隣の空家を活用するべく仲間と知恵を出している。
- 日本の伝統文化と精神の保護および啓蒙活動。
- 家族、特に子供に対し啓蒙することであり、市が開催するイベント等への協力も可能と考えます。

【ご要望・その他】

- その道のプロそして有名人による解説会を聞きたい、また職場、家庭で真剣に討議する時間を設けたい。
- それらに関して学んだり経験したことがないので、自分に何ができるかはわからない。国によっては、社会的マイノリティの人達が普通に社会に溶け込んでいて、とても理想的だと思う。
- 個人情報保護法が最大の障害となっているので、条例等で解決出来ないでしょうか？
- 協力する用意はあるので、器を作ってほしい。
- 回覧板は町内会で回っていると思うが、近隣に情報を効果的にカスケードしていく仕組みがあれば良いと思っている。（自分がなにか貢献できるかどうかは別として）
- 個人的に取り組んでいることはありますが、市と協働することは難しいです。
- とくにありません。
- 無い。（力量不足）

【地域共生課より】

たくさんのご意見ありがとうございました。

市では、「共生社会」の実現に向けて、様々な取り組みを始めているところです。

市の目指す「共生社会」は、子ども、高齢者、障害者など、対象を限らず、全ての市民が、お互いを尊重し合い、支え合える社会であり、実現するためには、幅広い、多様な視点からの取り組みが必要となると考えています。

今回のアンケートにより、地域や個々での活動に関心のある方も多いことが分かりましたので、みなさまのご協力を得ながら、ご意見も踏まえて一つ一つ「共生社会」の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

鎌倉市 共創計画部 広報広聴課 広報広聴担当

〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号

TEL 0467 (23) 3000 内線 2506

FAX 0467 (23) 6505

e-mail : emoni2505@city.kamakura.kanagawa.jp